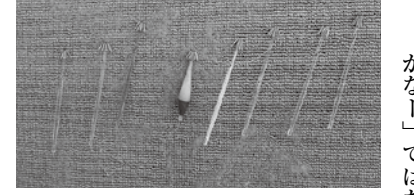


•Tackle Guide

ひと口にフロロカーボンハリスといっても製品によって特徴がある。ヤリイカの仕掛けでは強度、しなやかさよりも張りのあるタイプがいい。仕掛けがさびやすく手前マツリも少なくなるからだ。また「魚は(イカも?)縦糸を見る」という漁師さんもいて、屈折率が水に近く透明度の高い糸がよりよい選択だ。

▼仕掛けを自作するならハリスにも気を配ってみたい



だが、そう思った瞬間にバ

リ。そのまま竿を持ち上げながら電動リールのスイッチオンで巻き上げを開始すると、うれしやけつこうな重量感が伝わる。
仕掛けをたぐっていくと一番上のツノにはゲソのオツマミ。あちやあちやとちまったか。だが、下を覗くとボンヤリ白い影。まだまだ1杯乗ってる!と気を取り直して仕掛けをたぐるが、これがなん

サバ外しが大活躍

しかしこの日は運が良かった。次投でも竿先にクンクン!と分かりやすいアタリが出て巻き上げ開始。今度もゲソのオツマミ付きで「なんだかなー」ではあったが、しつ



▲相模湾小田原沖は沖イカファン要注目のエリア

長谷川丸は小田原周辺のイカや根魚釣りなどを得意とする船宿。朝、港で船長にあいさつすると「別に取っておい

全員型を見た

この時期「オダモン」と呼ばれる大型のキハダマグロで注目を集める相模湾小田原沖。お膝元の小田原早川港は、私

座らせていただく。船は定刻6時に港を出ると右手に舵を切って釣り場の真

「8月中にもスルメイカに交

▼多点掛けを連続する流しもあった



り。3投目はもっと深くなって「おいおい200超えたよ」「220で着いた」と声上がる。
しかも途中までは真つすぐ下りていく道糸が途中からはトモ寄り

と反対舷の方の道糸とオマツリして、あと1メートルというところでポロリ。ヤリイカはシュツと元氣よく海の底へと帰っていった。

途巾150メートルを切った辺りでクンクン!と初めて生体反応を感じられて一安心。

この後もヤリイカも乗るがサバも掛かる、の展開が続いた。巻き上げ途中サバに振り落とされることもありアタリの割には数がのびないが、まったりタイムに比べればまだまだだ。この状態は沖揚がりの14時まで続き、釣果は一人10〜17杯。右トモの菅野さんと左ミヨシの常連さんが竿頭タイだった。

上から2番目の淡いブルーと下から3番目の若草ボディに赤白の糸を巻いたツノに胴長12〜13センチのチビヤリが乗っていた。
赤白の糸巻きツノは定番だが、暇に飽かして自分で巻いたツノ。市販品よりも何割増しかでうれしいものだ。

右舷胴の間氏が口火を切る。右舷トモ、ミヨシと続く。バリバリとはいかないが、誘いシャクリと巻き落としをしっかりと繰り返しているとポツポツと乗ってくる感じ。型



▲胴長20〜25センチの中型が主体

この後もヤリイカはま

沖イカファン注目のエリア 小田原出船のヤリイカ上昇

●相模湾小田原早川港発 真鶴沖

フィッシングライター 相川晃 Akira Kasukawa

知得! Tips and Tricks

オアカムロはうれしいお土産

この日の後半もサバの攻撃には悩まされた。サバ、サバ、サバと続くと本当に嫌になるが、時折交じるオアカは美味なので持ち帰ることをおすすめする。尻尾が赤いからサバとの見分けはすぐに付くはずだが、サバと混同してリリースし「今のはオアカたま」と船長から声がかかるシーンをよく見かける。

標準名オアカムロといふムロアジの仲間、30センチを超える大きになると脂の乗りは半端なく、刺身やタタキ、フライなどで抜群にうまい。この日は小型が多く脂の乗りは今イチだったが、そんな個体でも塩焼きや干物、煮付けにするとけっこういける。騙されたと思って持ち帰ってみてください。

▲オアカムロが釣れたらぜひキーブを

●船宿information

相模湾小田原早川港

長谷川丸

☎0465-23-1295 (詳細は巻末の情報欄参照)

谷川 元則船長

▶料金=ヤリイカ乗合一人1万円(氷付き)
▶備考=予約乗合、6時出船。ほか希望でイナダ五目、アマダイ、根魚、キハダなどへも

小田原早川港出船のヤリイカ釣りは、10月21日から初島沖も解禁となるから、瀬ノ海、真鶴沖、初島沖と釣り場の選択範囲が広がり、より安定した釣果が望めるようになると思う。オダモンだけでなく初期の身厚で柔らかなヤリイカを狙うにも小田原早川港は要注目エリアだ。

●かさかわ あきら/当日の日中はTシャツでも汗ばみ、翌々日は長袖でも震えた。季節の変わり目目の着る物選びは難しい。